



**シニア
CO-OP
わかやま**

組合員数 3,898名 (2016年5月31日現在)

北東西南 (NEWS)

人生の完成期、輝いて生きる!

発行所 和歌山高齢者生活協同組合
住 所 和歌山市中之島782
T E L (073)432-7577

ホームページ [和歌山 高齢協](#)

[検索](#)

**総代会
報告号**

第一七回通常総代会が

盛大に開催されました!

和歌山市内を
中心に県下全域、
新宮からも三名

六月一日
(土)に、和歌
山市北コミュ
ニティセンタ
ー(さんさんセ
ンター)で開催
しました。

総代さんの
事前の参加確
認では四〇数
名の予定でし
たが、実際は五
一名の総代さ
ん、書面議決で
参加された総
代さんを合わ
せて実出席九
〇名、(その他、
組合員さんが
多数ご参加い
ただき一〇〇
名を超える規
模で盛大に開
催しました。

の総代さんが、始発のくろしおに乗って
参加されました。昨年開設した、やまぐ
ちささえ愛センターで活動しているみな
さんや、紀和庵で活動されているみなさ
ん、高齢協の幅広い活動の中で活躍され
ているみなさんが一堂に会しました。

総代会の開会にあたり、ご来賓の中か
ら、和歌山県生活協同組合連合会の副会
長理事木下様と、日本高齢者生活協同組
合連合会の常任理事西様からご挨拶を頂
きました。

午前中は、
昨年の総括や
決算、今年度
の方針や予算
について議論
し、全ての議
案について、
賛成多数で採
択されました。
議案の内容や、
活動報告など
は、次頁以降
でご紹介しま



すので、一
読ください。

今期は、役
員の任期満
了に伴う改
選が行われ、
理事二一名、
監事五名が
選任されま
した。

午前の部
の最後には、
永年勤続表

彰、資格取得者の表彰などが行われ、生
きがい活動を一〇年継続された方も表彰
されました。

午後の部は、紀和庵のみなさんのフラ
ダンス・歌から、「楽しく学ぼう防災学校」
と題した寸劇で防災グッズや災害時に役
立つちよっとした知恵のご紹介、最後に、
一昨年好評だった、骨董品のオークショ
ンが開催され、この剰
余金を含め、五万
二二三円が、熊本地震
の支援金に募金され
ました。ご協力ありが
とうございました。



第一七回通常総代会活動報告

生きがい・暮らし応援事業の取り組み

市野 弘 理事

新規事業部の取り組みについて

新規事業部では、介護保険事業に次ぐ事業の柱を確立すること、高齢協を実感できる先駆的な取り組みを確立することをめざし、大きく分けて二つのプロジェクトを立ち上げて、活動をすすめています。

一つ目は、「生きがい・暮らし応援事業」とし、組合員の暮らしに役立つ活動と、生きがいを持って暮らし続けていける取り組みを検討・準備しています。この事業の中で、①健康サポートセンター②流通販売センター③サロン推進センター④学びあいセンター⑤ささえ愛たすけあい募金の五つの活動の具体化を検討しています。

二つ目は、「共生型事業」の展開を検討・準備しています。ここでは、六次産業（農業を軸に、生



産・加工・販売を一手に賄う事業)の事業所確立をめざす中で、障害者のゆるやかな就労、高齢者の生きがい就労、生活困窮者をサポートする活動など、みんなが力を合わせて、みんなで支え合える取り組みを考えています。

「生きがい・暮らし応援事業」

① 健康サポートセンター

組合員の健康を支え、サポートする環境を整備します。

健康日本二一(第二次)の方向性に添って、組合員が支え合いながら自立した日常生活を営むことをめざし、ライフステージに応じた「こころの健康」「次世代の健康」「高齢者の健康」など、相談機能を持った、健康サポートセンターの設置を検討します。当面、具体的な体制の提案をすすめます。

② 流通販売センター

組合員の相互の暮らし応援として、「会員制ねっとマーケット」のシステムを検討中です。各地域ごとにピックアップポイント(荷受け場所)

を設け、生産者が直接配送し購入者が受け取りに集まる。新しいカタチのコミュニケーション型ショッピングサイトです。新鮮な野菜などを、生産者から直接受け取ることができるので、安心です！



③ サロン推進センター

住み慣れた地域で仲間と共にお茶飲み会、身近な所に居場所・サロンがあればうれしいですね。

健康・生きがい交流を目的とする居場所・サロンを、組合員が住まわっている地域に広げたい。空き家の対策も急務です。地域の仲間、関連団体と連携しながら、空き家の管理や居場所・サロンへの活用展開を検討します。

④ 学びあいセンター

一〇〇歳以上の人口が、全国で七万人を超えています。「人生の完成期、輝いて生きる」という目的は、

高齢者にとって不可欠なものです。この目的に向けて、昨年度、「人生は一幕目がおもしろい」講座を実施しました。これを、第二(若い)の義務教育として提案をすすめます。

⑤ ささえ愛たすけあい募金

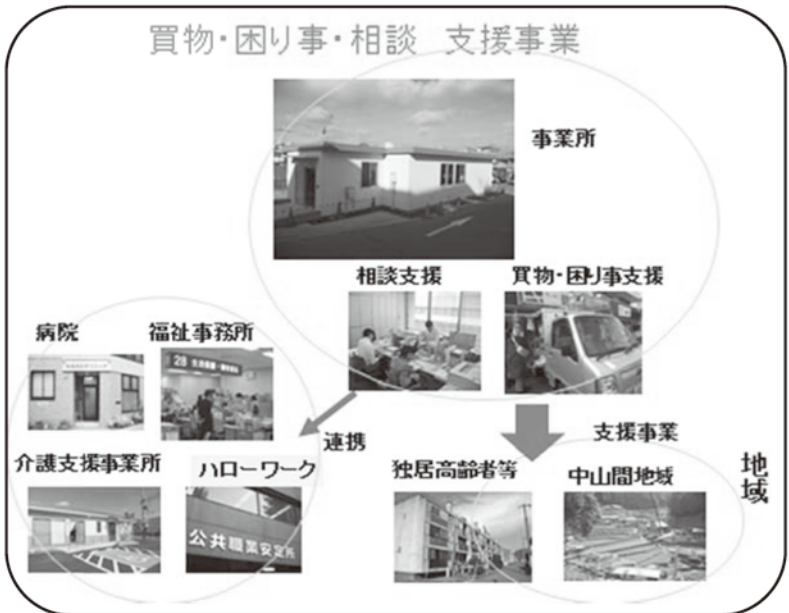
組合員の互助活動及び災害時に支援する「こころの受け皿」として、募金箱基金を設立します。

「こころの受け皿」の想いは、まごころが寄せられる助け合い社会をめざし、たすけあい活動が、募金で膨らんでいく姿を確認できます。

また、募金は社会への費銭箱(自分にかえってくるもの)として、いつも置いてある場所があり、人の集まる機会に登場するものとして。

「共生型事業」

やまぐちささえ愛センターを基盤に「共生型地域サービス事業所」を開設し、高齢者・障害者・子育て・生活困窮者支援事業を推進します。このため、自治会や地域包括支援センターなどとの連携を



強化します。また、紀南地域に「ささえ愛センター」の新設準備を進めます。

具体的な事業として①買い物・困り事・相談支援事業②子ども食堂・学習支援事業③認知症支援事業、難病・中途障害者支援事業や就労訓練事業、健康増進事業④農産物直売所を拠点とした、六次産業(農業+加工業+小売・飲食)事業化をめざします。

これらの事業を推進するところで、元



気な高齢者を組織し、年金+αの収入をめざし、元気な高齢者が生きがいを感じながら、少しの収入を確保できる「生きがい就労」づくりをめざします。当初は、ボランティアを中心に事業展開を開始し、将来的には、地域の元気な高齢者が、責任を持って、前述①～④の各事業をすすめていくことを検討しています。

第一七回通常総代会活動報告

ささえ愛センターの取り組み

梶村 進 ささえ愛センター長

皆さん、よう、お越し

やまぐちささえ愛センターの活動報告を
させていただきます。

活動のスタンスとしましては、「人生の
完成期 輝いて生きる」をテーマに「ひ
とりはみんなのために みんなはひとり
のために」をモットーとして、「人生は
二幕目がおもしろい」という事を掲げて
活動にあたっております。

今、皆さんにごあいさつさせて頂きま
した「よう、お越し」という言葉はセン
ターの愛言葉になっていきます。

センターに来られた時は、「よう、お越し」
帰られる時は、「また、お越し」
とお互いに声を
掛け合いながら
挨拶しています。

実際の活動は
と云いますと、わ
かやまの底力
市民提案実施事

業の助成金を活用して、人生の完成期
輝いて生きる連続講座と銘打って全五回
の講座を開催しました。

次の活動としては、居場所づくりとい
う事で、これが日々の活動のメインとな
ります。今年に入ってからの実際の活動
報告書を、何点か皆さんに報告します。

その中で、健康ヨガ教室というのが何
回か出てきますが、これは、センターに
来てくれる九一才になる男性の方が、「長
い事ヨガやってるんや・・」という事か
ら始まり、今では定期的に月二回教室を
開催しています。この事もあって、ヨガ
教室の後に、いろいろなイベントを企画
してくれる事が多いです。

こちらの手芸ですが、これもメンバー
の方が、こんな事出来るで、あんな事出
来るで、こんなもん作りたいな、あんな
もん作りたいな、という事で交代で随時
教室を開いています。この時は、ビーズ
でストラップ作りをしようという事なの
ですが、さすがにこの時は、ビーズの穴
が小さくて皆さん悪戦苦闘していました。

弁当買ってお食事で普通の弁当屋の
お弁当なのですが、このお弁当の凄い所
は、数の集計から、注文、集金、引き取
り、支払いまで、全てメンバーの方がし



ています。その上、お味噌汁も作って
来て、写真に載っていませんが、お漬物
も持ってきてくれたと、たかが弁当、さ
れど弁当でまた、みんなと一緒に食べる
のですごくおいしいです。食事の後は、
コーヒを飲みながらちょっと一服です。

こちらは、新年会を兼ねて、たこ焼きパ
ーティーで、たこ焼き器をお家から持ち
込んで頂き、アツアツを美味しくいただ
きました。

こちらは、料理を作って食べよう会で
焼きそばを作りました。それとこの写真
は、いま皆さんに見て頂いている、催事
報告書を随時力フェコーナーにも張り出
していて、それを見ている所です。

こちらは、ひな祭りを兼ねて、チラシ
寿司を食べよう
会で、彩りも美
しく、かわいい
料理を作って
くれました。食
事の後には、差
入れしてくれ
た果物でコー
ヒータイムで
す。



オモロー会の初めての外出企画で、エルトゥールル号軌跡探訪と銘打って、串本に行ってきました。

ヨガ教室の後、麦の郷の麦市さんがセンターで新鮮野菜や加工食品の出張販売をしてくれました。その後、メンバーの方が、ご自分の農園で収穫されたブルーベリーを持ってきてくれてみんなでジャム作りをしました。そのシャムでランチをした後、みんなでカラオケタイムでした。

オモロー会のお出かけ企画で、花王の工場見学に行ったところですよ。

グリーンライフシニアわかやまさんがセンターに来てくれて、綿の実から糸を紡ぎ・機を織る所まで体験させて頂きました。

医療生協のメンバーの方が、おもしろ会というグループを作られて、センターを拠点に活動を広げていってくださっている

所です。

このようにして、いろんな団体さんとながりが出来てきてすごく嬉しく思っています。

今はやりのスマホ・タブレットの使い方を教えて頂いている所です。この日は、オモロー会の来月の予定を企画する日で、皆さん集まって頂いて、いろいろ企画を考えてくださっている所です。

この様にして、今発表させて頂いている様なイベントが決まっているんです。この日は、朝からシフォンケーキを焼いてくれる方あり、コーヒージェリーを持ってきてくれる方あり、抹茶アイスを差し入れてくれる方ありで、すごくリッチなおやつになりました。



終わった

後は、みんなで後片付け、掃除しました。本当に、皆さんに支えられてセンターの活動が進んでいることを実感しています。

ます。

ついこの間、センターに備え付けている、健康測定器具を使って、みんなで健康チェックをしている所です。この時もたくさんの方の差し入れを頂きました。

これからのささえ愛センターのめざすところは、地域住民による、地域住民のための、地域住民の居場所づくり、そういった事が出来ればいいなあと思っています。是非とも、皆様のお知恵、お力をお貸しください。ご清聴ありがとうございます。



二〇一六年度の方針

専務理事 上森 成人

■総論

六月四日に、日本高齢者生活協同組合連合会の総会が、東京で開催され、①高齢協は社会運動を進める組織であること、②運動を前進させていくために、高齢者の介護に限定せず、「生きづらさ」を抱える人々の課題全般に視野を広げ、様々な福祉ニーズに対応する協同組合として、地域づくりに向かうことを確認しました。全国的な連帯を強めながら、高齢協運動の輪をさらに大きくしていきます。地域の人々の生きる力を紡ぎ、様々な地域ニーズに対応しながら、活動を豊かにしていきます。

▼二〇一六年度の運動課題

〜5つの運動課題〜

二〇一六年度の運動課題を、5つ挙げました。

① 「介護難民と漂流社会」です。必要な介護を受けられない方や、住み慣れた地域を離れて施設を転々とさ

れる方が増えていく、という不安があります。

的な暴力といえると思います。

② 「孤立と無縁社会」。一人暮らしの高齢者や夫婦のみの世帯が増える中、「孤立死」や、「老老介護」による自殺、「こうした悲しい出来事をよく耳にするようになりました。

▼安心はどこへ？
〜医療と介護をめぐる動き〜

社会保障は、私たちの安心の砦です。けれども、「人権」より「財政」が優先されています。「二〇二〇年にプライマリ

③ 「認知症七〇〇万人時代」。五人に一人が認知症になる時代を迎えていきます。

④ 「老後破産」。平均的な年金生活者が、ちよつとしたことがきっかけで、困窮に陥ってしまう。NHKで放映され、大きな話題になりました。

⑤ 「平和と暴力」の問題もあります。戦争法案、原発再稼働それから格差と貧困。格差や貧困もまた、経済施策がみだす構造

① 病院のベッドを減らす

② 要支援1・2の方をボランティアで

③ 要介護1・2の方をボランティアで

④ 病院のベッドを減らす

⑤ 要支援1・2の方をボランティアで

⑥ 要介護1・2の方をボランティアで

⑦ 病院のベッドを減らす

⑧ 要支援1・2の方をボランティアで

⑨ 要介護1・2の方をボランティアで

⑩ 病院のベッドを減らす

⑪ 要支援1・2の方をボランティアで

⑫ 要介護1・2の方をボランティアで

⑬ 病院のベッドを減らす

⑭ 要支援1・2の方をボランティアで

⑮ 要介護1・2の方をボランティアで

⑯ 病院のベッドを減らす

⑰ 要支援1・2の方をボランティアで

⑱ 要介護1・2の方をボランティアで

5つの運動課題

- ①介護難民と漂流社会
- ②孤立と無縁社会
- ③認知症700万人時代
- ④老後破産
- ⑤平和と暴力

安心はどこへ〜医療と介護をめぐる動き〜

社会保障を削り、税収をあげる

↓

- ①病院のベッドを減らす
- ②要支援1・2の方をボランティアで
- ③要介護1・2の方をボランティアで

ります。①病院のベッドは、数が減らされます。厚労省は和歌山県に、ベッドの数を3割ほど減らすよう、指導しています。この削減率は近畿で一番高い数字です。②介護度の軽い方は、介護保険サービスから外されて、地

2016年度のテーマ

『地域づくりにおける存在感』

『高齢協の実感』

「思いを同じくする人、思いを同じくする団体と手を携えて、「地域づくり」に向かいたい」と思っています。「高齢協の仲間になつてよかった」、「自分の人生が輝いている」と組合員一人ひとりに感じていただける

▼二〇一六年度の方針
五つの運動課題と、社会保障の削減。今年度は、こうした課題を中心に据えながら、私たちの願いである「人生の完成期を輝いて生きる！」を実現するために、

域のボランティアで支えてください、となります。介護費用を抑えるためです。一年後には、要支援一〜二の方が外されることが決まっています。そして、二年後には要介護一〜二も外すという議論が、国で進められています。

介護職員の皆さんへ

『考える介護』を実践しましょう！

効率性ばかりを追求したマニュアル化された介護ではなく、一人ひとりの高齢者にあわせて考え、工夫する想像力溢れる介護

組合員の皆さんへ

ポストの数ほど 『つどう場』を！

- ①仲間づくり
- ②健康・生きがい
- ③学び合い

➡ 困ったことを相談しあい、
支え合いの地域づくりに向かおう

経営・仲間づくりの目標

- ①事業高 4億723万円 (前年度比108.6%)
- ②組合員到達 4080人 (+200名)
- ③出資金到達 3640万円 (+150万円)

ような、事業や活動に取り組み、一年としたいと思えます。

「人生の完成期を輝いて生きる！」
以上が、今年度の基本方針です。二〇二五年に向けて、高齢者を取り巻く制度は、めまぐるしく変わっていきます。高齢協のビジョンの実現に向けて、使える制度は活用し、経営の向上にも努め、同時に、「人生の完成期を輝いて生きる」と

いう理念を決して見失うことなく、事業活動に取り組み一年としたいと思えます。組合員の皆さま、よろしく願いいたします。

(専務理事 上森成人)



二〇一六年度介護事業部方針
常務理事・介護事業部長 内田 嘉高

今年度、職員全体で、大切にしたいことがあります。それは、『考える介護』の実践です。一人ひとりの高齢者に合わせて、職員一人ひとりが考える、工夫する、想像力溢れる介護。この実践に取り組みます。

介護の質を、3つの方向で高めていきたいと思えます。一つ目は、「重度対応から看取りまで」、この支援の質を高めます。退院が促され地域で看取る時代が来ます。その方々をしっかりと受けとめていくために、この専門性を高めることが、とても大事になります。二つ目は、「人生を支えるケア」と表現しました。例えば、「病気で体が不自由になってしまったけれど、もう一度旅行をしてみたい、もう一度料理がしてくれるようになりたい」、そう願う方がいたとしたら、その願いが実現できるように、専門的なケア（リハビリ）をおこなうという考え方です。

くる、認知症になっても安心して暮らせるような地域づくりに取り組む、こうしたテーマにも取り組んでいきたいと思えます。

地域での看取りを支えていくために、新たな事業所づくりに取り組みたいと思えます。既に、和歌山市や上富田町で、「ケア付きの住まい」に取り組んでいます。今年度は、白浜町などで、新たな住まいの設置を準備します。また、看取り支援のために、訪問看護の開設も準備します。

これらを実現するための実践的な課題を、次の九つの柱にまとめられています。

- ① 在宅支援の充実
キネステティック
や喀痰吸引など、
専門性の高い研
修受講を推進し、
また、国家資格
の取得を推奨する
などし、介護



保険制度の変化に対応できる人材づくりを強化します。

② 考える介護の実践

月一回、「考える介護」をテーマとした部内報を発行し、「おたっしや倶楽部」ならではの「おたっしや倶楽部」らしい介護について、職員全体で考え、業務改善につなげていきます。

③ 職場づくり

各事業所でのミーティングの定例化と出席率の向上をすすめ、職員集団の団結力を高めるとともに、「がんばった」分は、きちんと評価される新人事制度の策定をすすめます。

④ 経営改善

この間進めている、予実管理をさらに強化し、P（計画）D（実行）C（検証）A（改善）サイクルを定着させていきます。このことで、経営効率を高め、安定的な剰余確保に努めます。

⑤ 防災対応

⑥ 職員教育
 年二回の全職員研修を開催し、また、日常的にも、全ての職員が高齢協働働く意味、おたっしや倶楽部のケアの目指すものを共有し、心のこもった技術向上を目指します。

⑦ コンプライアンスの充実
 事業所運営で最低限求められる法令順守項目について、その正確さを高め、ミスをなくす対策をすすめます。

⑧ 部門会運営
 一五の事業所を、事業形態ごとに部門会を設置し、同業種間での情報交換、相互研鑽をすすめ、法人全体の職員組織の強化を目指します。

⑨ 見える化
 事業所と本部の連携を強化し、事務

効率の向上や、課題抽出能力の向上を目指します。

以上の事を実践し、

事業高 四億円超

の達成を目指します。

このように時代の変化に対応する力をしっかりと養いつつ、現場の最先端だからこそ出合う矛盾・おかしさを看過せず、根底にある問題が何かを学習します。各部と連携運動して、声を発していきます。そうして自らの存在意義を深め、理念にそった結集と飛躍を遂げていける介護事業部でありたいと力をあわせてまいります。



和歌山高齢者生活協同組合の事業所
 (ケアセンターおたっしや倶楽部)

人生の完成期、輝いて生きる！
介護が必要になっても、輝いて生きる、お手伝いをします！

介護に関するご相談は

居宅介護支援事業所 (ケアマネさん)
 和歌山ケアプランセンター (和歌山市)
 伊都・橋本ケアプランセンター (橋本市)
 田辺ケアプランセンター (田辺市)

ヘルパーさんの派遣は

訪問介護事業所
 わかやま訪問介護事業所 (和歌山市楠見中)
 // サテライト (和歌山市中之島)
 伊都・橋本事業所 (橋本市)
 那賀事業所 (紀の川市)
 海南事業所 (海南市)
 御坊・日高事業所 (御坊市)

デイサービスは

通所介護事業所
 ぬくもりの家 (白浜町)
 上秋津の里 (田辺市)
 れくらん (和歌山市里)

安心して暮らせる住まいは

サービス付き高齢者向け住宅
 かみとんだ おたっしや館 (上富田町)
 やまぐち おたっしや館 (和歌山市里)

障害者の方の支援計画は

那賀相談支援事業所
 ※連絡先は、裏表紙に記載しています。

二〇一六年度 組織・運動関係方針
事務局長・組合員活動・サービス部長 高林 稔

共に学び、共に考え、共に行動する

高齢協の今年度の活動の基本姿勢として、「学び」「考える」「行動する」を、組合員みなで進めていきたいと考えています。一部の人の考え方や意見で進めていく(引っ張られる)のではなく、みんなで学び、考えることで、何を、どうするのかを議論していく中で、行動していきたいと思えます。

命と暮らしを守る運動については、最たるもので、「人生の完成期、輝いて生きる」前提は、平和で安心して暮らせる社会があったこそ。そのためには、何が必要で、どうしなければならぬかをみんな議論しながら、活動をすすめていきたいと考えています。

また、思いを同じくする仲間との連携も強めていく必要があります。高齢協は、設立以来組合員層を増やし、四千名の組



合員になろうとしていますが、和歌山県の人口の中では、まだまだ小さな存在です。いろんな団体・組織と手を携えることで、大きな活動をすすめていくことができます。「助け合い協同組合」もこの発想に基づいた活動として、方針提起していきます。

「人生の完成期、輝いて生きる」ために、みんなの手を取り合って、力を合わせて進めていきましょう。

これまでの高齢協では、組合員さんどうしの活動や、交流を、広く展開することができていませんでした。いろいろな思いをもって、様々な活動の展開は進みました。同じ思いを持つ人たちが、活動の幅を広げたり、仲間の輪を広めるといってころまでは至っていません。

今後、さらなる展開・強化をめざし、組合員さんどうしの繋がりを広め、強める取り組みが求められています。

昨年の生協強化月間で取り組んだ、「ポストの数ほど集う場を！」の取り組みは、今年度も継続し、県下全域での展

開をめざしていききたいという思いを持ちながら、無理の無い範囲から、進めていきたいと考えています。

このような活動を推進していくために、「組合員活動・サービス部会」を組織します。

二〇一六年度の組合員活動・サービス部の活動は、大きく三つに分けて活動を展開していきます。

一つ目は、「ささえ愛センター」とし、やまぐちささえ愛センターの活動強化と、他の地域でのささえ愛センター設置をめざします。紀和庵ややまぐちささえ愛センターの活動を拡大・強化し、「助け合いの地域づくり」に貢献すること、同様の活動を他の地域(当面、田辺市内を想定)に展開することを考えています。

二つ目は、「交流部門(仮)」として、これまでの「生きがい活動」をすすめてこられたメンバーを中心に、組合員さんどうしの交流を深める活動を推進します。



同じ高齢協に所属する仲間同士、互いに知り合い、話し合う中で、さらに強固な組合員組織の確立を目指します。

三つ目は、「助け合いの地域づくり部門」として、高齢協の理念「人生の完成期、輝いて生きる」ために、地域の組合員さんどうし、住民の方同士つながりを広め、強めることで、「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために」活動する地域づくりをすすめます。昨年までの、市町村の「総合事業」の取り組みと連携しながら、高齢協独自の「助け合いの地域づくり」を推進します。



役職員組織の強化も目指します

高齢協運動の原点に立ち返り、「生活協同組合」って何？、そこでの役職員に求められるものって何？そもそもものところを、役職員が学びあい、考えあう活動をすすめます。

生協法や定款、設立趣意書、創立宣言などについて、役職員の中での勉強会を開催し、一人ひとりの「生きる力」を結

集し、「みんなが主人公」の地域づくりを率先垂範できる役職員組織づくりを目指します。

学んだ事は広めましょう！

役職員組織の中で勉強会を開き、学んだ事は組合員のみなさんにもお知らせします。通信やホームページで報告し、組合員のみなさんと一緒に考えていきたいと考えています。通信やホームページを使って、新しい仲間を増やしても行きたいと考えています。「高齢協」という名前を知ってもらい、何を考え、行動しているかを知らせる中で、組合員の仲間を増やしていきたいでしょう。

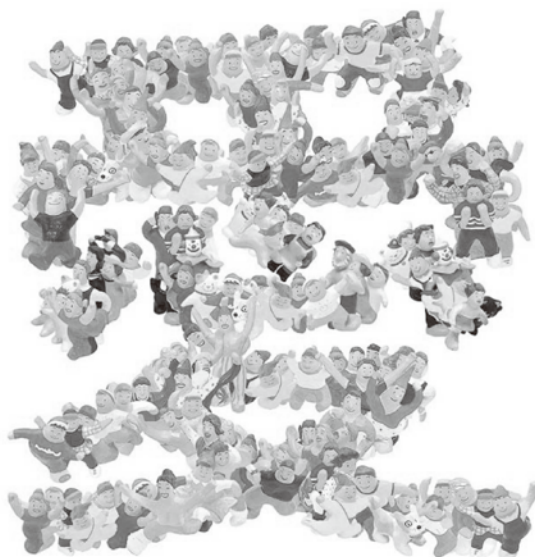
今年度の組合員加入の到達目標は、

四千八十名

出資金の到達目標は、

三千四百六十万円です。

役職員も、多くの人に声を掛け、この目標達成に向け努力していきます。組合員のみなさんも、ご協力いただきますようお願いいたします。



おたっしゃ倶楽部で働こう！ ～介護資格の取得費用を8割負担します～

「ケアセンターおたっしゃ倶楽部」では、180名もの職員さんが介護の仕事をしています。親の介護を意識しはじめ、子育てにひと段落ついた世代が多く、平均年齢は50代前半。ほとんどが初任者研修からスタートし、介護福祉士やケアマネージャー資格に挑戦しています。

高齢協では、もっと多くの組合員さんに介護事業に関わっていただきたいと、新たに補助制度をつくりました。おたっしゃ倶楽部で働きたい、興味はあるけれど、介護資格を持っていない方の資格取得費用を8割負担します。つまり、ご本人負担は2割。年齢は不問です。(資格取得後、3年間はおたっしゃ倶楽部で働いていただくよう、お願いします。)

- ・おもに橋本市、紀の川市、岩出市、和歌山市、海南市、御坊市とその近辺にお住まいの方が対象です。
- ・資格取得後、すぐに働けるように、前もって各事業所で面接相談をします。
- ・勤務先は、各地域のおたっしゃ倶楽部・訪問介護(ホームヘルパー)事業所となります。
- ・対象講座は、介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)です。



まずは、気軽にお電話ください。♪お待ちしていま～す。073-432-7577(担当:内田)

シニアCO-OPわかやまの主な事業所・活動

- ◆本部事務局 ☎073-432-7577 ◆やまぐち ささえ愛センター ☎073-462-0023
- ◆介護・福祉 ケアセンターおたっしゃ倶楽部
 - わかやま訪問介護事業所 ☎073-455-7979 伊都・橋本ケアプランセンター ☎0736-44-2330
 - 〃 サテライト ☎073-427-8200 海南事業所 ☎073-483-7105
 - 和歌山ケアプランセンター ☎073-424-5295 御坊・日高事業所 ☎0738-23-0396
 - やまぐち おたっしゃ館 ☎073-462-1055 田辺事業所
 - れくらん ☎073-462-5558 かみとんだ おたっしゃ館 ☎0739-47-0866
 - 那賀事業所 ☎0736-77-6511 田辺ケアプランセンター ☎0739-33-7022
 - 那賀相談支援事業所 ☎0736-77-6511 田辺第二事業所(上秋津の里) ☎0739-35-8181
 - 伊都・橋本事業所 ☎0736-43-1546 白浜事業所(ぬくもりの家) ☎0739-43-7788
- ◆健康・生きがい事業部

JIAS PC(パソコン)/和歌山営繕事業部・女性部「結い」/海南営繕事業部/海南第二営繕事業部/御坊営繕事業部・女性部「ねこの手」/伊都・橋本営繕事業部/田辺暮らし・安心・お助け隊/ハイキング友の会/ほっとけやん倶楽部/送迎事業部/市民農園/どこ竹@わかやま/旅行倶楽部/葬送事業部/いっぶく亭～紀和庵～/御坊おたっしゃタイム/お墓参り代行 心香
- ◆田辺支部 ◆新宮支部 ◆NPO法人成年後見紀の国サポートセンター ☎073-418-2020

今回の総代会で選任された役員の方々

- | | | | |
|-------|--------|-----|--------|
| ◆理事長 | 田中 秀樹 | ◆理事 | 金川 めぐみ |
| ◆副理事長 | 宇治田 康司 | | 市野 弘 |
| | 神谷 治良 | | 山田 三代士 |
| | 中 マチ子 | | 芝田 努 |
| ◆専務理事 | 上森 成人 | | 瀧 寿行 |
| ◆常務理事 | 内田 嘉高 | | 山田 耕司 |
| | | | 山田 俊治 |
| | | | 北田 千恵 |
| | | | 富山 穂美 |
| | | | 井上 美香 |
| | | | 大笹 肇子 |
| ◆監事 | 島 久美子 | | 西平 美紀 |
| | 日野 のぞみ | | 吉田 充子 |
| | 志場 久起 | | 小長谷 恭史 |
| | 川口 義晴 | | 高林 稔 |
| | 杉原 通男 | | |

第17回通常総代会において、任期満了に伴う役員改選が行われました。

「人生の完成期を輝いて生きる！」高齢協の原点を大切に、活動を推進していく先頭に立っていただけるみなさんです。

今期はじめて、学識経験者枠として、和歌山大学准教授の金川先生にも入って頂いています。

みなさん、高齢協の活動のさらなる発展に向け、ご協力、お願いします。